

畜産みやぎ

題 字

宮城県知事 村 井 嘉 浩

発 行 所

仙台市宮城野区安養寺三丁目11番24号

一般社団法人 宮城県畜産協会

電話 022-298-8473

編 集 発 行 人

高 橋 正

印 刷 所

(株)東北プリント



仙台牛PRキャラクター『牛政宗くん』
うしまさむね

も く じ

C O N T E N T S

会長年頭挨拶.....	2	〈畜試便り〉プロバイオティクス飼料の給与による乳牛の乳房炎発症予防について.....	9
知事年頭挨拶.....	3	〈衛生便り〉「飼養衛生管理基準を遵守しよう!」.....	10
畜産農場における飼養衛生管理向上の取り組み認証基準(農場HACCP認証基準)の取り組みについて.....	4	〈農業大学校生の抱負〉農業大学校での抱負.....	10
第12回全国和牛能力共進会鹿児島大会「第6区肉牛群」及び「肉牛の部」出品に向けた取り組みについて.....	5	「馬事畜産振興現地検討会」の報告.....	11
優秀農林水産業者の表彰について.....	6	畜産女性経営者の地域育成支援事業研修会開催報告...	11
アカバネ病予防接種の実施について.....	6	賀春.....	12
価格安定対策事業の発動状況について.....	7		
牛マルキンの生産者負担金納付の再開について.....	7		
繁殖牛生産基盤(簡易牛舎)推進事業について.....	8		



みやぎの
畜産情報
発信基地

宮城県畜産協会ホームページ

U R L <http://miyagi.lin.gr.jp>

畜産みやぎは上記ホームページからもご覧いただけます。



R70

〈会長年頭挨拶〉



一般社団法人 宮城県畜産協会
会長 高橋 正

謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

皆様におかれましては、お健やかに新年をお迎えることとお慶び申し上げます。

昨年は、新型コロナウイルス感染症に振り回された1年であったように思います。国内でも様々な業界に影響を及ぼし、世界経済にも深刻な打撃を与える事態となりました。畜産業界におきましては、インバウンド需要や外出自粛の要請による外食需要などの減退により、和牛の枝肉価格が急落し、在庫量も積み上がるなど肥育経営を圧迫しました。子牛価格も同様に下落し、生産から流通に至るまで大きな打撃を受けました。現在は相場も持ち直しているものの、首都圏を中心とした緊急事態宣言の再発令により、消費や価格に影響が出る可能性があり、今後先行き不安な状況が続いています。

家畜の悪性伝染病につきましては、アジア地域においてAFS（アフリカ豚熱）の感染拡大が止まらず、国内への侵入リスクが最大限に高まっており、侵入防止の徹底が図られています。

国内で26年ぶりに発生したCSF（豚熱）は、12月25日、東北で初めて山形県の養豚場において発生しました。本県においては、昨年の9月9日に福島県会津若松市で野生イノシシへの感染が確認されたことを受け、ワクチン接種推奨地域に指定され、10月13日から県南地域よりワクチン接種が開始されていますが、危機感はぬぐえません。

また、高病原性鳥インフルエンザが世界各国で猛

威を振るっています。国内においても、すでに、昨年の11月から西日本の多数の養鶏農場で、また、年末には千葉県でも発生しました。過去最大規模の被害状況となっており、最も警戒が高まっています。引き続き野鳥や野生動物の侵入遮断、畜舎周辺の清掃、消毒等の飼養衛生管理の徹底が求められています。

一方、和牛の遺伝資源の不法持ち出し未遂や精液・受精卵の不正な取り扱いを受けて、家畜改良増殖法の一部改正と家畜遺伝資源に係る不正競争防止に関する法律が、昨年の10月1日から施行されました。長年にわたる改良によって培われた和牛遺伝資源が、知的財産として法制化されたことは、大変意義があることだと思います。

東日本大震災から10年となる今年、東京オリンピック・パラリンピックが開催されます。まだまだ震災の課題は残っていますが、復興の歩みは着実に進んでいます。ご支援、ご協力をいただいた世界各国の皆様、被災地の現状を見ていただき、ここまで復興できたことの感謝の気持ちをお伝えできればと思います。

そして、沢山の方々に世界に誇る日本食を存分に味わっていただき、その美味しさ、すばらしさを実感していただければ、今後の日本の農畜産物の消費拡大に大いに繋がるものと期待いたします。

本協会といたしましても、国や県等関係機関と連携し、肉用牛の増頭対策をはじめとする畜産経営基盤の体質強化とさらなる発展のための諸事業を実施するとともに、新型コロナウイルス感染症及びTPP関連対策事業等の各種緊急支援対策にも取組んで参りますので、関係機関、会員並びに関係各位のさらなるご支援、ご指導を賜りたくお願い申し上げます。

結びに、今年は丑年です。畜産業界にとりまして実り多い年となりますこと、そして、皆様の益々のご健勝とご多幸をお祈り申し上げ年頭のご挨拶いたします。

〈知事年頭挨拶〉



宮城県知事 村井 嘉浩

明けましておめでとうございます。新しい年を迎えるに当たり、県民の皆様の御健勝と御多幸を心からお祈り申し上げます。

昨年は、「宮城県震災復興計画」の最終年となり、石巻市の内海橋開通や南三陸町の震災復興祈念公園が全体開園するなど、震災で甚大な被害を受けた地域に復興の象徴となる施設が完成し、復興の着実な歩みを感じられました。一方で、世界的な新型コロナウイルス感染症の流行により、外出自粛や休業要請等に伴う消費の低迷、観光客の減少、大型イベントの相次ぐ中止決定など、県民生活や地域経済に大きな影響を及ぼした1年でもありました。畜産分野においても、新型コロナウイルス感染症の流行により外食需要が減少したことで、牛肉価格が低迷しました。低迷した牛肉の内食消費拡大のため、仙台牛PR事業を行い、消費拡大に努めたところであります。

家畜伝染病については、9月に福島県で野生イノシシでの豚熱発生が確認されたことにより、宮城県も豚熱ワクチン接種対象地域に指定され、10月から豚熱ワクチン接種を開始しました。また、西日本を中心とした鳥インフルエンザの感染拡大や12月に確認された山形県鶴岡市の養豚場での豚熱発生に伴い、特定家畜伝染病対策本部幹事会や情報連絡会議を開催し、情報共有と連絡体制の構築を図っているところです。

今年は丑年ということもあり、更なる牛肉消費拡

大のため、仙台牛の魅力を広めていくために、より一層の仙台牛PRを進めてまいります。また、家畜伝染病の発生を未然に防ぐために、引き続き飼養衛生管理の徹底を図ってまいります。

さらに今年は、東日本大震災から10年が経過し、新たな県政運営の指針である「新・宮城の将来ビジョン」の初年度となります。今後、本県の人口は本格的な減少局面を迎えることが想定されており、さらに、地域経済・社会の持続可能性の確保、大規模化・多様化する自然災害や新型コロナウイルスのような新たな感染症の世界的な流行といった時代の転換点に直面する中、その先にある宮城の明るい未来を描いていくことが求められています。「新・宮城の将来ビジョン」に掲げる「宮城の将来像」の実現に向け、富県宮城の更なる発展や子育て支援・教育分野の充実などに向けた取組を推進するほか、各分野における人材の育成・確保や働き方改革の推進に取り組んでまいります。また、「誰一人取り残さない」社会の実現を掲げるSDGsの理念は、今後本県が直面する諸課題を解決する上で重要な要素であると考えられることから、この理念を県政に反映させ、持続可能な地域社会の実現を目指してまいります。

加えて、昨年延期となった東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会が開催され、「キューアンドエースタジアムみやぎ」でサッカー競技が行われる予定です。また、同様に昨年延期となった「全国豊かな海づくり大会」が、今秋本県で初めて開催される予定です。宮城の復興の姿を広く発信するとともに、国内外から訪れる多くのお客様に、これまでの御支援に対する感謝を伝えたいと考えております。

間もなく10年目の節目の「みやぎ鎮魂の日」を迎えますが、決意を新たに、県民の皆様一人一人が幸福を実感し、いつまでも安心して暮らせる宮城を目指して取り組んでまいりたいと考えておりますので、今後とも御理解と御協力をお願い申し上げます。

畜産農場における飼養衛生管理向上の取り組み認証基準 (農場HACCP認証基準)の取り組みについて

一般社団法人 宮城県畜産協会

家畜・畜産物の安全性の確保のために、畜産物の製造、加工、流通の各段階の最上流である生産現場として飼養衛生管理対策を徹底することが重要となっています。

そこで、国（農林水産省）は平成21年8月に「畜産農場における飼養衛生管理向上の取組認証基準（農場HACCP認証基準）」を公表し、公益社団法人中央畜産会が事業化して普及、構築を図っており、本協会も平成24年度より取り組んでおります。

農場HACCPは、食品分野で特に活用が進められている「HACCPシステム」の手法を取り入れた畜産農場における衛生管理システムです。畜産農場での衛生管理は、食品加工施設の衛生管理とは大きく異なります。そこで農場HACCP認証基準では、畜産農場の特殊性を認識し、安全な家畜・畜産物を生産する上で、活用できる衛生管理システムの構築と継続的改善を実行するための規格を示しています。

～農場HACCP認証基準の主な特徴～

1 相互コミュニケーション

食品の安全は「農場から食卓まで」と言われているように、フードチェーンの各事業者が相互に連携を取って食品の安全に対する責務を果たしています。農場は、出荷先等各事業者からの情報を積極的に収集して改善に結び付けるようにしています。

2 HACCP計画と一般的衛生管理

農場HACCPは、生産に関わる原材料、生産環境、施設、作業手順などすべてについて危害要因分析を実施します。特に重要事項は必須管理点（CCP）と定め、管理を集中します。また、一般的な衛生管理の取り組みによって制御できる危害要因は、一般的衛生管理プログラムとして管理していきます。

3 継続的改善の仕組み

農場HACCPでは、計画、運用、検証、改善を連続的に進める手法で、継続的改善を図ることにより家畜・畜産物の安全と生産性の向上を行います。

4 全ての農場において構築可能

農場HACCPは、農場規模の大小に関係なく全ての畜産農場を対象にしています。たとえば、家族経営の小規模農場においても、外部のHACCP専門家や獣医師、関係機関などの協力を得てシステムを構築できます。

5 飼養衛生管理基準の遵守

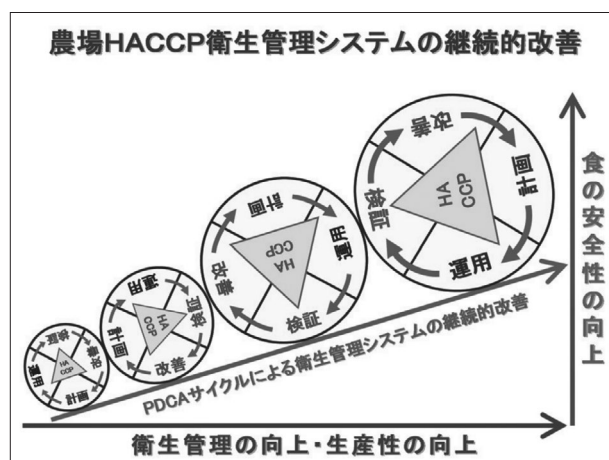
令和2年4月家畜伝染病予防法が一部改正され、飼養衛生管理基準の改正も施行されました。今回の改正では、家畜の所有者に対し飼養衛生管理者の選任等新たな対応も求められています。

農場HACCPでは、今回の改正で求められているマニュアル等に対応する書式を備えており、これを活用することによって効率的に飼養衛生管理基準の条件を満たす仕組みを構築することができます。

国内では豚熱（CSF）や高病原性鳥インフルエンザの感染が広がり、近隣諸国からのアフリカ豚熱（ASF）侵入の脅威等家畜の飼養衛生環境の厳しさが増している今日、持続可能な畜産経営を目指すため、農場HACCPシステムを活用していただきたいと思います。

農場HACCP認証取得をお考えの場合には、本協会をはじめ、県内各家畜保健衛生所に「農場HACCP指導員」の資格を持った職員がおりますので、ご相談いただきたいと思います。

（家畜衛生課 早坂翔太）



「畜産農場における飼養衛生管理向上の取組認証基準（農場HACCP 認証基準）の理解と普及に向けて」より抜粋

第12回全国和牛能力共進会鹿児島大会「第6区肉牛群」及び「肉牛の部」出品に向けた取り組みについて

第12回全国和牛能力共進会宮城県出品対策協議会

第12回全国和牛能力共進会鹿児島大会(以下、鹿児島全共)の最終比較審査には、全国から種牛265頭、肉牛169頭及び特別区25頭のあわせて459頭が出品されます。このうち、宮城県は種牛13頭、肉牛7頭、特別区1頭の合計21頭の出品を予定しています。肉牛7頭の内訳は、第6区(総合評価群)肉牛群3頭、第7区(脂肪の質評価群)3頭、第8区(去勢肥育牛)1頭です。

肉牛の部では、「脂肪の質評価群」が新設され、鹿児島全共の関連規則・資料集には、「和牛独特の風味があり、口溶けが良く、食味の向上が期待される「脂肪の質」の改良体制の構築も促していきます。」との記載があり、新たな改良形質として期待されているところです。

さて、第12回全国和牛能力共進会宮城県出品対策協議会(以下、協議会という)では、これら「肉牛」の出品区での優等賞一席を目指し、令和元年5月に41頭の子牛を19農場に引き渡し、早期肥育試験を開始して管理技術の向上に取り組んできました。試験期間中は、約2ヶ月に1回のペースで、協議会、全農みやぎ、NOSAI宮城、JA全農北日本くみあい飼料、各JA及び県関係機関が巡回し、体尺測定、給与飼料調査、超音波肉質推定や血液性状分析などを実施してきました。

この度、肥育試験が終了し、令和2年10月6日に枝肉調査を実施したので、その結果を紹介します。今回の試験では、洋糸波産子14頭と茂洋美産子27頭が試験牛として肥育されました。全体の平均値は、枝肉重量が467.0kg及びBMSNo.が7.4であり、第11回全共宮城大会の出品牛及び候補牛69頭の平均値480.0kg及びBMSNo.7.3と比べ、遜色がない結果となりました(表)。また、種雄牛別では、洋糸波が枝肉重量及びロース芯断面積で優れた成績を示したのに対し、茂洋美は脂肪交雑に優れ、本試験のBMSで最高のNo.12を記録しました(図)。

出品候補牛については、昨年度12月から「茂福久」及び「洋糸波」の指定交配を実施し、今年度の10月から分娩が始まっております。今後は、出品候補牛の巡回選定や肥育者への引渡しに向け準備を進めていきます。

鹿児島全共に向けて、生産者をはじめ、畜産関係者及び関係団体など、多くの方々の御協力により、今後とも日本一を目指し出品対策に取り組んでまいります。

表. 24か月早期肥育試験調査会の枝肉成績

種雄牛	頭数	枝肉重量(kg)	ロース芯面積(cm ²)	バラ厚(cm)	歩留基準値	BMSNo.	MUFA予測値(%)
洋糸波	14	482.8	64.2	8.4	75.4	6.5	60.1
茂洋美	27	458.8	58.5	8.2	74.7	7.8	61.2
合計	41	467.0	60.5	8.2	75.0	7.4	60.9
宮城全共※	69	480.0	62.6	8.3	74.8	7.3	57.8

※宮城全共：第11回全共宮城大会における出品牛及び候補牛の枝肉成績69頭の平均値(ただし、MUFA予測値は、出品牛8頭の平均値)

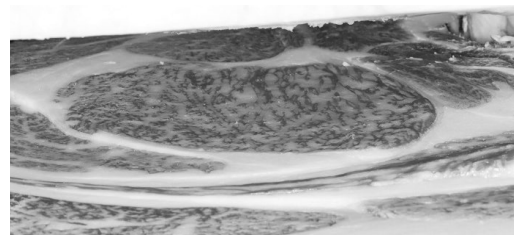


図. 早期肥育試験調査会出品牛(茂洋美産子 BMSNo.12)

(事務局 全国和牛登録協会宮城県支部・宮城県農政部畜産課)

NAR 地方競馬全国協会

岩手競馬(盛岡・水沢開催)2・3月 開催予定表

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31
2月	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日			
3月	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水
													水	沢																	

※開催期間中の重賞レースはありません。

優秀農林水産業者の表彰について

宮城県農政部畜産課

令和2年11月23日(月)に明治神宮会館において令和2年度(第59回)農林水産祭式典が開催されました。式典では、野上農林水産大臣をはじめ、多くの来賓の参加のもと、全国から農林水産大臣賞を受賞された優秀農林水産業者等約400人が参加し、天皇杯、内閣総理大臣賞及び日本農林漁業振興会会長賞の授与が行われました。

本県畜産関係では、次の方々が農林水産大臣賞を受賞され、この式典に招待されました。心からお喜び申し上げますとともに、ますますの御発展をお祈りいたします。

表彰行事名	品 目	市町村	受賞者
第59回仙台牛枝肉共進会	黒毛和種	石巻市	株式会社川村ファーム
令和元年度宮城県総合畜産共進会	乳 用 種	角田市	有限会社渡辺ファーム
令和元年度宮城県総合畜産共進会	肉 用 種	大崎市	後上 藤三
令和元年度宮城県総合畜産共進会	肉 豚	登米市	有限会社ビッグ夢ファーム
令和元年度全国肉用牛枝肉共励会	牛 枝 肉	登米市	株式会社川口ファーム
第22回東北・北海道連合肉用牛枝肉共進会	黒毛和種	黒川郡大和町	有限会社根元ファーム

(生産振興班 山田真未)

アカバネ病予防接種の実施について

一般社団法人 宮城県畜産協会

【アカバネ病とは】

アカバネウイルスを保有するウシヌカカ等の吸血によって感染します。

妊娠牛が感染すると胎齢により、流産や胎児の奇形(脊椎や四肢の湾曲)・大脳欠損などの異常産を起こすことがあります。

平成22年夏から平成23年春頃に、東北地方を中心に大流行し、宮城県でも死・流産や異常子牛が多数確認され、大きな被害を及ぼしました。

毎年実施されている「おとり牛」の抗体検査では、平成28～30年には全国的にほとんど陽転は確認されていませんでしたが、令和元年には中部・関西地方以南の多くの府県で陽転が確認されており、今後、東北地方での流行も懸念されます。

アカバネ病は、ウイルスによる病気のため、発生してからでは治療法がありません。被害を防ぐには、ワクチン接種が最も効果のある予防法です。

母牛には毎年ワクチンを接種しましょう！

【アカバネ病予防接種の実施】

- ・注射料金：2,140円
 - ・接種時期：4～6月に実施予定です
 - ・接種申込：市町村に申込み願います
- (大崎地域の和牛は農業協同組合に申込み願います)

【畜主の皆様へのお願い】

事前に牛の健康観察を行うとともに、接種時には、必ず立会い、保定をお願い致します。分娩間際、分娩直後の牛、体調不良の牛については、獣医師と相談の上、接種するようにしてください。

事故防止のため、ご協力をお願いします。立会がない場合は、接種できないこともあります。

(家畜衛生課 伊藤 敦)

価格安定対策事業の発動状況について

一般社団法人 宮城県畜産協会

◎肉用牛肥育経営安定交付金（牛マルキン）の交付金単価

(単位：円)

販 売 月	肉専用種（宮城県）	交 雑 種（全国）	乳 用 種（全国）
令和2年10月 概算払	48,457.95円	127,468.4円	33,969.2円
11月 概算払	0.00円	75,365.6円	34,144.7円

※令和2年5月以降の肉専用種は、積立金不足により国費分のみ（3/4相当額）の支払いとなります。

◎肉用子牛生産者安定等特別措置法（子牛補給金）交付金 第3四半期（令和2年10月～12月）交付なし

牛マルキンの生産者負担金納付の再開について

一般社団法人 宮城県畜産協会

肉用牛肥育経営安定交付金（牛マルキン）では、令和2年4月以降、牛マルキンの生産者負担金の納付猶予（国費分（4分の3）の交付）を行っています。負担金の納付再開は、以下の一定条件を満たせば牛マルキンの生産者負担金の納付を再開します。（最短で令和3年6月から納付再開となります。）

また、再開する際には、生産者負担金の単価を新たに設定します。

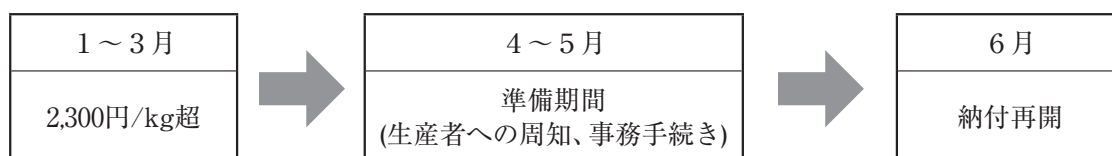
○ 納付再開の仕組みは、以下のとおりとなります。

- ①肉専用種の月平均の枝肉卸売価格（※）が、3か月連続で2,300円/kgを超えた場合、準備期間を経て納付を再開します。

※食肉流通統計における食肉中央卸売市場価格（和牛去勢、全規格、消費税込み）

- ②準備期間については、2か月間とし、連続した3か月目の翌々月から納付を再開します。
- ③新たな仕組みの導入は、令和3年1月分からとします。

(例) 最短で納付再開となる場合



※1 新型コロナウイルス感染症の発生状況等によっては、納付再開の条件等を変更することもあり得ます。

※2 令和2年3月までに負担金を納付済みの牛が納付再開後に出荷された場合、積立金が払底していた県では国費分（4分の3）の交付となります。

- 交雑種及び乳用種は、肉専用種の納付を再開するタイミングに合わせて再開します。
- 納付を再開する際には、再開の条件を満たした段階の枝肉価格等を踏まえて、都道府県ごとの保険設計を見直し、生産者負担金の単価を新たに設定します。

(経営支援課 庄司清文)

繁殖牛生産基盤（簡易牛舎）推進事業について

全農宮城県本部 畜産部

全農宮城県本部で実施している『繁殖牛生産基盤（簡易牛舎）推進事業』についてご紹介いたします。
この事業は平成27年度から実施し、令和元年度までに31棟、今年度は5棟を建設しております。

【目的】

和牛繁殖経営及び和牛一貫経営における和牛繁殖生産基盤の維持・拡大を図るため、和牛繁殖規模拡大農家への支援並びに担い手中心に和牛繁殖基盤拡充と経営安定（生産コスト削減）を目的としております。

【事業内容】

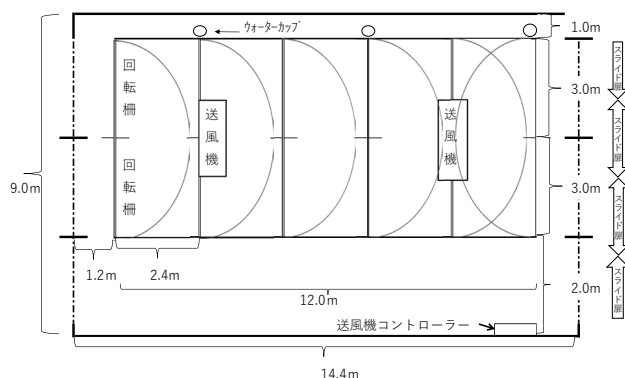
独立行政法人農畜産業振興機構が実施している「肉用牛経営安定補完事業（繁殖雌牛の増頭に資する簡易牛舎の整備）」を全農宮城県本部が利用し建設した簡易牛舎を飼養者と賃貸契約し、賃貸期間終了後は飼養者の所有となります。

- ① 簡易牛舎建設に伴う用地の確保、確保に伴う許認可・手続き等は飼養者が行います。
また、それに伴う費用は飼養者が負担します。
- ② 補助率は1/2以内（税抜）となり、対象は本体牛舎及びウォーターカップ等の器具器材となります。
土間コンクリート・電気工事・水道工事は全額飼養者負担となります。
- ③ 建設した簡易牛舎は本会与賃貸契約（7年間）を締結します。
建設費用に関しては資材の耐用年数等を加味して7年間の分割払いとなります。
- ④ 簡易牛舎は『かまぼこ型のビニールハウス』となり、牛舎の面積は1棟当たり500㎡以内で、繁殖牛増頭1頭当たりの面積は13㎡以内となります（例：10頭増頭する場合は130㎡以内）
- ⑤ 牛舎の㎡当たりの単価は2.5万円（税抜き）です。
- ⑥ 5年後までに建設した簡易牛舎の頭数を純増することが条件となり、5年間は毎年飼養頭数等の報告書の提出が必要です。
（例：10頭牛舎建設の場合は、5年後に10頭純増していること）
※ 全農宮城県本部では、増頭のための導入助成をご用意しております

【簡易牛舎建設してからの注意】

- ① 増頭のための牛舎であるため、既存の牛舎・パドック等を活用して分娩舎・育成舎等のスペースの準備が必となります。
- ② ビニールハウスのため、カラスが多い地域では鳥除け対策等野生動物への対応が必要となります。

【施工例：10頭規模】



令和3年度も繁殖牛生産基盤（簡易牛舎）推進事業を実施いたします。

簡易牛舎建設にあたっての諸条件、賃貸条件等について、建設を考えておいでの方、ご興味のある方は、地区のJAを通じてお問い合わせをお願いいたします。

（事業管理課 荒川まゆみ）

〈畜試便り〉

プロバイオティクス飼料の給与による乳牛の乳房炎発症予防について

宮城県畜産試験場

乳房炎をはじめとした泌乳器病は乳用牛の全国病傷病類別事故件数の29.2%を占め、最も事故件数が多い疾病です。乳房炎に罹患すると乳量および乳質の低下をもたらす酪農家に多大な損失を与えているため、その対策を講じることが急務の課題となっています。現在、乳房炎治療の多くが抗生剤を用いた治療を中心に行われており、その削減は治療費の軽減になることに加え、乳製品という観点からは消費者に与える畜産物の安全性と安心感は計り知れません。

畜産試験場では乳房炎の発症予防あるいは早期治療へ誘導するには、「プロバイオティクス飼料」を給与して腸管粘膜免疫を刺激し、乳腺粘膜免疫の活性化が誘導できないか研究を行ってきました。「プロバイオティクス飼料」としてアサヒバイオサイクル(株)が販売する枯草菌含有飼料添加物「カルスポリン」(*Bacillus subtilis* C-3102株を有効成分)を選定して乳房炎発症に及ぼす影響を解析し、「カルスポリン」給与による未經産牛への乳房炎発症抑制効果について検証しました。

ホルスタイン種未經産牛を試験区12頭及び対照区11頭供試し、試験区では分娩1ヶ月前から「カルスポリン」を 6×10^9 個/頭/日給与しました。乳房炎発症状況は試験区で乳房炎発症比率が低く、また発症牛1頭あたりの投薬日数および出荷停止日数も少なかったことから乳房炎の程度も比較的軽いものであったと推測できます(表1)。また、分娩後90日間の乳汁中体細胞数を測定しリニアスコアの平均値を比較したところ、対照区と比べ給与区は低い値で推移し、特に分娩後35日から70日間は有意に低い値を示しました(図1)。以上のことから、「カルスポリン」は未經産牛に対し乳房炎発症予防効果を有する可能性が示唆されました。

飼料添加物として給与された「カルスポリン」は、胃で消化されることなく腸管に到達し腸内の有用菌(ビフィズス菌と乳酸菌)を増殖させ、腸内細菌叢を最適化します。

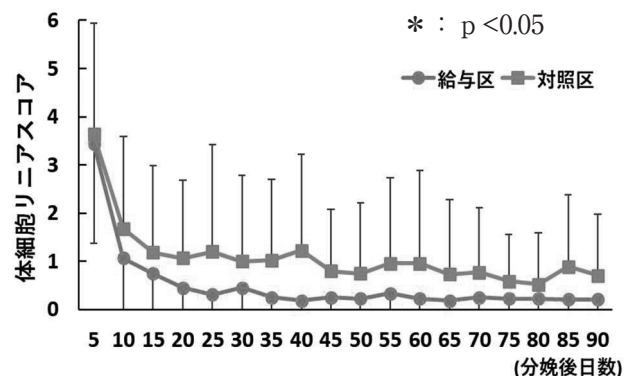
「カルスポリン」給与は乳房炎の発症を全くなくす方法ではなく、症状を緩和させる方法であることを申し添えます。

本成果は東北大学とアサヒカルピスウェルネス株式会社との共同研究により得られたものです。

* 体細胞リニアスコア = $\log_2$ (体細胞数/100) + 3

表1. カルスポリン給与による乳房炎発症状況

	乳房炎 発症率 (%)	発症牛1頭 あたりの投薬 日数(日)	発症牛1頭あた りの出荷停止 日数(日)
分娩後 対照区	45.5	12.2	26.8
90日間 給与区	8.3	3.0	15.0
分娩後 対照区	60.0	14.0	26.0
280日間 給与区	30.0	5.7	12.3



(酪農肉牛部 浅野貴史)

〈衛生便り〉

「飼養衛生管理基準を遵守しよう！」

宮城県東部家畜保健衛生所

今年度、国内において、高病原性鳥インフルエンザや豚熱の継続発生が認められ、隣県の山形県でも豚熱の発生が確認されており、家畜防疫に関して予断を許さない状況が続いています。

これらの疾病を予防するためには、「疾病を引き起こす病原体が、どこからもたらされるのか」を常に意識することが重要です。病原体は、農場に持ち込む器具や長靴、野鳥やイノシシなどの野生動物、道路上に存在する病原体を踏んだ自動車のタイヤなど、様々なものに付着して農場内に侵入すると考えられます。農場や畜舎内に病原体を持ち込まないようにする方法を規定しているのが、飼養衛生管理基準で、これが今年度新たに改正されました。その1つとして、農場で使用する長靴や衣服について、衛生管理区域内専用のもので加えて、畜舎専用ものを準備することが必要になりました。なお、詳細につきましては、農林水産省のホームページや各家畜保健衛生所にお問い合わせください。

この飼養衛生管理基準を参考に、「自分の手や長靴、又は自動車のタイヤなどあらゆる所に病原体が付着している」と考えて日々の作業をしていただき、その病原体を取り除くために定期的に洗浄や消毒を実施するなど、病原体を農場内に持ち込む可能性をできるだけ小さくするよう心掛けていただければと思います。

飼養衛生管理基準を遵守することで、高病原性鳥インフルエンザや豚熱、口蹄疫等に対する疾病予防の一端を担うことができます。家畜の飼養者の皆さまには今一度、細心の注意を払って日々の衛生管理を実施し、家畜伝染病の予防に努めていただきますようよろしくお願いいたします。

(防疫班 富樫哲也)

〈農業大学校生の抱負〉

農業大学校での抱負

宮城県農業大学校畜産学部

1学年 櫻田 里実



農業大学校に入学してからだいぶ月日が経ちました。しかし、農業大学校に入学することを決めたのは、高校3年生の秋でした。

当初、私は企業に就職することを前提に普通科高校に入学しました。この頃はまだ、酪農に興味がありませんでした。しかし、高校3年生のある日のことです。偶然見つけた酪農に関する動画をなんとなく見ました。その動画では、現代の酪農の現状や課題、今後の酪農について説明されていました。動画を見た後、私は酪農に対して深く考えさせられ、酪農に対して興味を持ったのです。このことがきっかけで、高校卒業後、企業へ就職せず、農業大学校に進学し、酪農を含め農業について学ぼうと思いました。

農業大学校での抱負は大きく分けて2つあります。1つ目は、酪農を含め農業について基礎から学び勉強に励むことです。他の生徒の半数以上は農業高校出身です。その為、私以上に農業に関する知識があります。普通科高校出身の私は、農業に関する知識が少なく、分からないことも多くありました。講義と実習では、農業に関する専門用語や作物の栽培方法、GAPについてなど知らないことがたくさんあり戸惑ってしまいました。しかし、1学年で講義を受けることで、それらを含め、農業に関する多くのことを学ぶことが出来ました。今後も、講義・実習共に一所懸命励んでいきたいです。

2つ目の抱負は、農業大学校で学んだことを就農し経営者になった際に生かすことです。岩出山教場での専攻学習では、乳牛舎や豚舎などでの実習や座学を受けてきました。新たに知ったことや勉強になったことが多くあり、充実した学習ができています。1年生は座学がほとんどですが、2年生からは本格的に実習が行われるようなので、その際も将来酪農の経営者になることを前提に一所懸命臨みたいと思います。

(公社) 中央畜産会からのお知らせ

畜産映像情報

がんばる! 畜産! 4

畜産現場の“今”を30分の番組にしました!

映像を各種研修会、セミナーにご活用ください!

配信中の内容: 作業・管理の外部委託で規模拡大をめざす! / 若者たちの挑戦! / 鶏の卵が食卓に届くまで / 他



▼スマートフォンからはこちら
▼パソコンからはこちらで検索



(公社) 中央畜産会 経営支援部 (情報) TEL03-6206-0846

「馬事畜産振興現地検討会」の報告

宮城県地域畜産振興対策協議会

令和2年12月8日(火)、岩手競馬水沢競馬場において、地方競馬の普及啓蒙のため現地検討会を開催しました。今年はコロナ渦のため参加人数を抑えた上で、マスク着用、集合場所での検温と手指消毒等、感染対策を徹底しました。競馬場の入り口には検温のためのサーモグラフィカメラと消毒液が設置され、席にはテープが張られ3席のうち1席のみ使用できる状態となっており、競馬場側の感染対策もしっかりなされていました。そのような状況下での開催でしたが、参加者からは、「35年ぶりの競馬場、自動券売機に時代の流れを感じた」、「感染対策もされていて、安心して楽しめる」、等の声をいただき有意義な検討会となりました。



(事務局 一般社団法人 宮城県畜産協会)

畜産女性経営者の地域育成支援事業研修会開催報告

一般社団法人 宮城県畜産協会

県内の畜産経営で働く女性の交流と将来の女性経営者育成を目的として、本会主催による「畜産女性経営者の地域育成支援事業研修会」を、去る令和2年10月22日(木)に大崎市のバレットおおさき、同年11月17日(火)に仙台市の宮城県獣医師会館にて開催いたしました。

バレットおおさきの研修会では、新型コロナウイルス感染症への対策方法や子牛の育成管理について研修を行った後、公益社団法人中央畜産会が主催する畜産女性サポート力強化研修会に、リモート形式で参加しました。「女性が働きやすい職場」をテーマに、他県の農場の事例や女性グループの取り組みについて紹介がありました。

また、宮城県獣医師会館での研修会では、同主催の全国シンポジウムにリモート形式で参加し、「女性の活躍と畜産」をテーマに、東京大学大学院の松田二子准教授をコーディネーターに4名のパネラーの女性とのディスカッションを聴講しました。

参加者からは、「初のリモート会議への参加だったが、移動時間も省け、他県の色々な取り組みを聞くことができて参考になった」、「女性の為の施策も色々あるんだと勉強になった」などの声が聞かれました。



(経営支援課 伊藤利樹)

地方競馬全国協会からのご案内

「地方競馬の馬主になりたい!」という方は地方競馬全国協会までご連絡下さい。

地方競馬の馬主登録制度についてご案内いたします。

なお、地方競馬の馬主情報については、地方競馬サイト (<http://www.keiba.go.jp/>) でもご覧になれます。

(担当: 審査部登録課 電話 03-3583-2142)

賀 春

宮城県農業協同組合中央会長	高 橋 正
全国農業協同組合連合会宮城県本部長	大 友 良 彦
宮城県農業共済組合長理事	佐 藤 敬
みやぎ農業振興公社理事長	寺 田 守 彦
みやぎの酪農農業協同組合代表理事組合長	伊 藤 一 成
宮城県酪農農業協同組合代表理事組合長	一 條 光
宮城県家畜商協同組合理事長	渡 邊 通
全国和牛登録協会宮城県支部長	高 橋 修
宮城県ホルスタイン協会会長	半 澤 善 幸
宮城県ホルスタイン改良同志会長	半 澤 善 幸
宮城県家畜人工授精師協会会長	菅 原 三 郎
宮 城 県 畜 産 協 会 長	高 橋 正

